

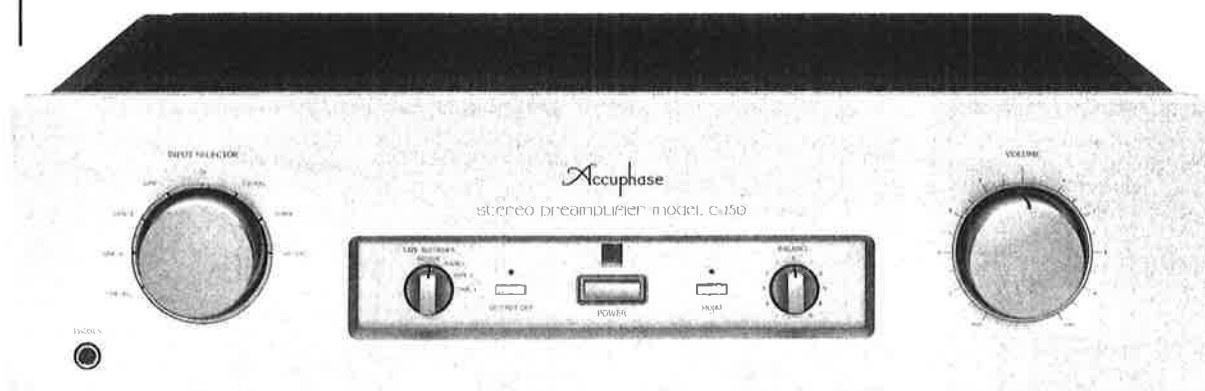
Accuphase

# STEREO PREAMPLIFIER

## C-250

ステレオ・プリアンプ

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
お読みになったあとは、後々お役に立つことがありますので、お客様カードと引  
きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## お 願 い

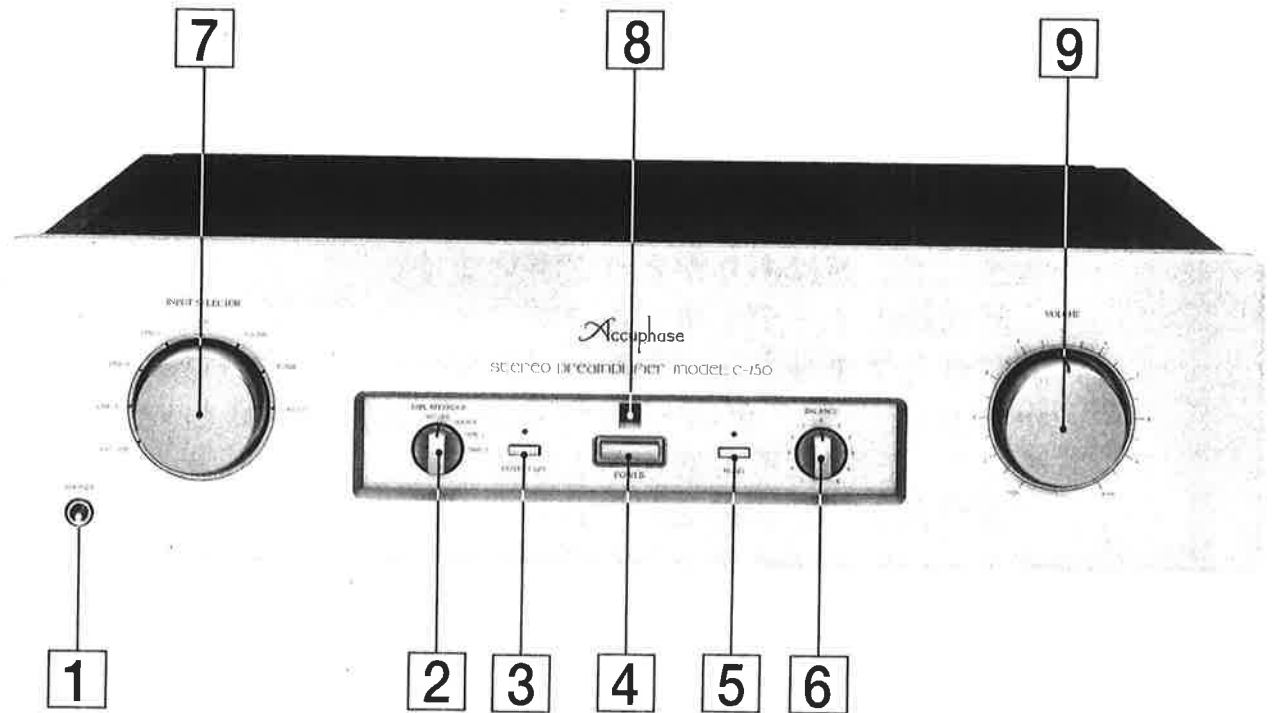
お客様カードを付属していますから、これに必要事項をご記入のうえなるべく早く（お買上げ後10日以内に）ご返送ください。お客様カードと引きかえに品質保証書をお届け申し上げます。

製品に関するお問い合わせ、または異常が認められるときは、弊社品質保証部またはお求めの弊社製品取扱店へ、直ちにご連絡くださいますようお願い申し上げます。

## 目 次

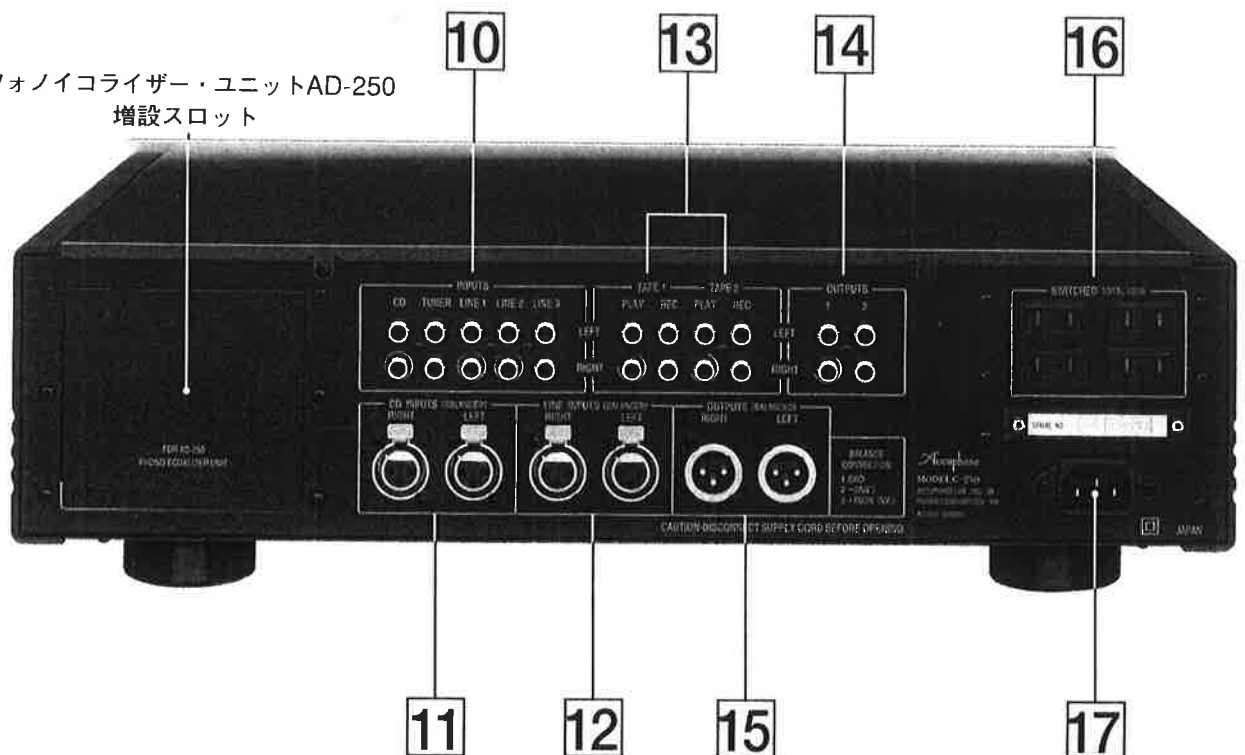
安全上必ずお守りください/ご注意	3
接続図	4
特長	5
各部の動作説明	6
ご使用方法	10
リモート・コントロール	12
保証特性	13
特性グラフ	14
ブロック・ダイアグラム	15
故障かな?と思われる場合には	16
アフターサービスについて	16

## フロントパネル



## リアパネル

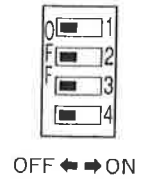
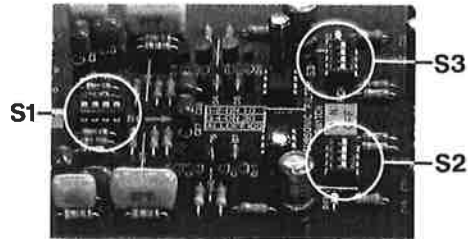
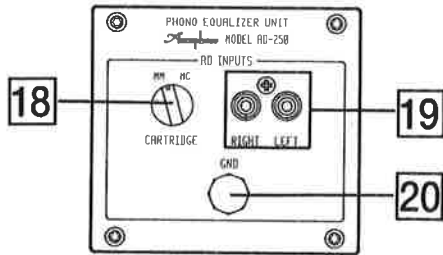
フォノイコライザー・ユニットAD-250  
増設スロット



オプション【AD-250】(機能や内容の詳しい説明は、本文8.9ページを参照してください。)

◆アナログ・レコードの再生には、別売「フォノイコライザー・ユニットAD-250」の増設が必要です。

21 ディップスイッチの設定



『MCカートリッジの負荷インピーダンス』『サブソニック・フィルター』の設定

※取り付ける前に、AD-250ボード上のディップスイッチ(3個)の設定をします。

※各キーは先の細いもの(ボールペンなど)で確実にセットしてください。

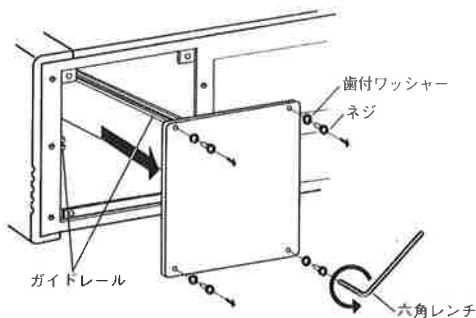
S1: MC LOAD			S2, S3: SUBSONIC FILTER	
100 Ω (出荷位置)	30 Ω	10 Ω	OFF (出荷位置)	ON
1,2,3,4: OFF	3,4: ON	1,2: ON	1,2,3,4: OFF	1,2,3,4: ON

S1: MC LOAD (L, RchのMCカートリッジ負荷インピーダンス)  
S2: SUBSONIC FILTER (Lchサブソニック・フィルター)  
S3: SUBSONIC FILTER (Rchサブソニック・フィルター)

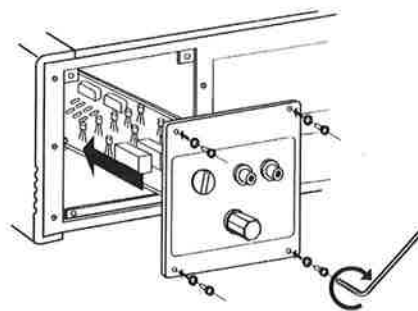
取り付け方法

①C-250の電源スイッチをOFFにします。

②リアパネル側の増設スロット用サブパネルをはずします。ネジ(歯付ワッシャー付)4本は、付属の六角レンチを使用してはずします。



③C-250挿入口の左右2本のガイドレールに沿って、AD-250を挿入します。コネクタに当って止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)②でははずした4本のネジと歯付ワッシャーで確実に固定します。



- ご注意
- AD-250を抜き差しするときは、必ずC-250の電源スイッチをOFFにしてください。
  - 取り付けネジ4本は少し強めに締めてください。確実に締めないと接触不良の原因となります。また、ネジを締めないで電源を入れると故障の原因になります。
  - ディップスイッチの各キーは、指定以外の設定では所定の特性が得られません。
  - ディップスイッチ以外の部品類及び裏側のハンダ面には、直接さわらないでください。
  - 取り付け時に、パネル面を傷つけないよう注意してください。

## 安全上必ずお守りください

### ■電源は必ずAC(交流)100Vをご使用ください。

- 電源周波数は50Hz、60Hzいずれの地域でも使用できます。

### ■電源コードは取り扱いを誤ると危険です。

- 無理に曲げたり、引っ張ったり、重いものを載せない。
- 抜くときは、必ずプラグを持つ。
- ぬれた手で電源プラグを絶対にさわらない。
- 付属の電源コードを他の機器に使用しない。また、付属以外の電源コードを使用しない。  
(定格、形式が合わないとは火災などの原因となります)

### ■本機の改造や内部の点検・調整・注油は行なわないでください。

### ■トッププレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。

### ■長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

### ■次の場合には、電源コードをコンセントから抜き、弊社品質保証部または弊社製品取扱店にご連絡ください。

- 内部に水や薬品がかかった場合。
- 内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。

## ご注意

### ■設置上の注意

次のような場所への設置はさけてください。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 振動や傾斜のある不安定な場所

### ■フォノイコライザー・ユニットの増設について

アナログ・プレーヤーを接続して、レコードを聴く場合には、フォノイコライザー・ユニットAD-250の増設が必要です。**抜き差しする場合には、必ずC-250の電源を“OFF”にしてから、**パネル面に傷を付けないように丁寧におこなってください。

### ■パワーアンプや他の機器と直接かさねないようにしてください

フォノイコライザー・ユニットAD-250を増設しますと、パワーアンプや他の機器の漏洩磁束により、ハム音(ブーンという音)がスピーカーから聴こえることがあります。このような場合は、パワーアンプや他の機器と直接重ねてのご使用は避けると同時に、機器間の距離は10cm以上はなしてください。

### ■レコード・プレーヤーなどを操作するときは、必ずアンプのボリュームを下げてください

カートリッジをレコード盤面から上げたり下げたりするとき、スピーカーに聴感上それほどの音圧を感じなくても、超低域の大電流が流れてスピーカーを破損する場合があります。必ずアンプのVOLUMEを下げてから行なうようにしてください。

### ■入出力コードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってから行なってください

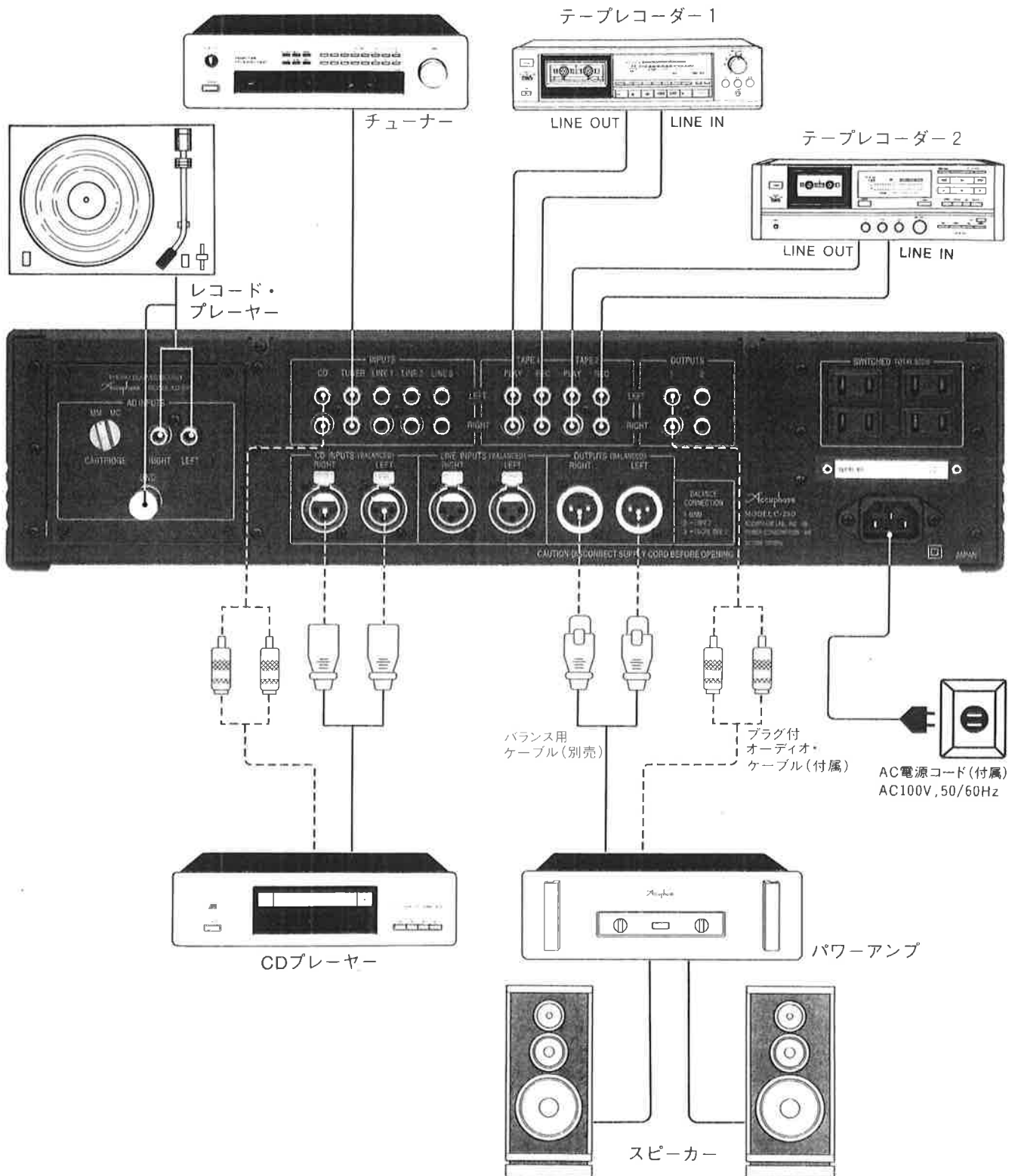
各機器間の接続をする場合は、必ず電源を“OFF”にしてください。特にRCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(一)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となることがあります。

### ■お手入れ

- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。
- 入出力端子やスピーカー端子などに接点保護剤などを使用しますと、樹脂部が経年変化で破損する場合がありますので使用はさけてください。

# 接続図

接続するときは、かならず各機器の電源を切り、  
LEFT (左)、RIGHT (右) を正しく接続してください。



# 特長

## ■理想のバランス伝送方式ラインアンプ

バランス伝送とは、お互いに位相が反転した対称信号を同時に送る方式で、コモンモード(雑音)成分を除去する能力に優れ、高音質再生にはなくてはならない存在です。

本機のライン・バランスアンプは、それぞれの出力を相手側にフィードバックするという、たすき掛けの関係にあり、+-の対称信号を低いインピーダンスで送り出します。この回路は、+-の対称信号がグラウンドからフローティングされ、バランス伝送として理想的な回路方式です。

## ■素特性重視のシンプルな増幅回路

NFB前の回路の素特性を重視し、全体のバランスから性能を追求、ディスクリート・パーツで構成しました。基本的には、アキュフェーズのオリジナル、コンプリメンタリー差動プッシュプルをベースに、比較的シンプルに仕上げました。これにより全体の位相補償も少なく、安定した増幅を行なうことができ、リアルで自然な音質の再生、かつ重厚な音の表現に大きく寄与しています。

## ■各増幅回路独立、完全ユニット・アンプ化

本機の主な回路は、ラインアンプ、バランス入力アンプ、バランス出力アンプなど左右合計6ユニットアンプで構成され、マザーボード上に整然と配置されています。これらのユニットアンプが相互干渉しないように、厚手のアルミ押し出し材で囲まれ、外部振動による共振も完全に防止しています。

## ■左右独立電源部により、完全モノ・コンストラクション

電源トランス、フィルター・コンデンサーとも左右独立し電氣的に完全にモノフォニック構成になっています。これにより、チャンネル間のクロストークがなくなり、アンプ間の相互干渉を完全に防止、理想的なステレオ増幅が可能となりました。

## ■鏡面仕上げの抵抗体を採用、高音質音量調整器

プリアンプの重要な機能の音量調整器には、特にひずみ率の小さい抵抗体を採用しました。この抵抗体は鏡面状に仕上げられ、低接触抵抗で耐摩耗性が大変優れています。

抵抗体と接触するブラシは金メッキ多接点型で、外部端子と一体構造にして金属接合面をなくし、異種金属が接触することによるひずみを低減しました。また、抵抗体が回転するという独創的な構造により、内部の接触点は大幅に減少、耐久性が増し、音質向上に大きく寄与しています。

## ■高音質・長期安定性に優れたロジック・リレーコントロール信号切り替え回路

最短でストレートな信号経路を構成するロジック・リレーコントロール方式を採用しました。リレーは『窒素ガス封入の完全密閉構造リレー』を開発、接点は『金および銀パラジウム合金のクロスバー・ツイン方式』で、低接点抵抗、高耐久性の極めて質の高いものです。

## ■音質重視の専用ヘッドフォン・アンプ回路を内蔵

リスニングの重要なファクターであるヘッドフォンに専用のアンプを設け音質に配慮しました。

## ■リモート・コマンダー付属

入力ソースの切り替えと音量調整を遠隔操作できる、便利なりモート・コマンダーを付属しました。

### 専用フォノイコライザー・ユニットAD-250(別売)

アナログ・レコードの再生には、専用のフォノイコライザー・ユニットAD-250をリアパネル側より増設することにより極上のレコード再生が可能となります。

MM、MCあらゆるカートリッジに対してもっとも優れた性能を発揮するように、専用入力回路を備えました。MM入力時はカートリッジの高出力インピーダンスに整合させて、高S/NのFET素子で構成しました。一方MCは、微小信号を低インピーダンスで受けるため、低雑音素子による差動入力回路を構成、NFBループの低インピーダンス化を図ることにより、雑音の少ない再生を可能にしました。

MC入力インピーダンスの選択と超低域ノイズをカットするサブソニック・フィルターは、本ユニットのプリント基板内で設定することができます。

## 各部の動作説明

### 1 PHONES— ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンのプラグをこのジャックに差し込んでください。

- ヘッドフォンだけで聴く場合には、[3] OUTPUT OFF スイッチを押して出力をOFFにします。
- インピーダンス4~100Ωのヘッドフォンをご使用ください。

### 2 TAPE RECORDER— テープモニター、録音出力ON/OFFスイッチ

#### REC OFF

通常(録音しない場合)はこのポジションにします。入力セレクターで選択するプログラムソースを演奏しますが、録音用“REC”端子には信号は出力されません。

#### SOURCE

録音する場合にはこのポジションにします。入力セレクターで選択されたプログラムソースを演奏すると同時に、“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。

#### TAPE-1, 2

テープ再生をするときには、“TAPE-1”および“TAPE-2”へ接続したテープレコーダーをこのスイッチで選択してください。録音時にこのポジションに切り替えますと、そのとき録音している状況をモニターすることができます(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

### 3 OUTPUT OFF— 出力ON/OFFスイッチ

ヘッドフォンだけで聴く場合には出力をOFFにしてください。

- 押して出力“OFF” : LED点灯
- 再び押すと出力“ON” : LED消灯

### 4 POWER—電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミュート回路が作動しますので出力はありません。

### 5 MONO—モード切替スイッチ

ステレオとモノフォニックの切替スイッチです。モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。

- 押して“MONO”(モノフォニック) : LED点灯
- 再び押すと通常のステレオ再生 : LED消灯

#### 注意

録音をするとき“MONO”の状態(LED点灯)では、レコーディング出力もモノフォニックになりますので、注意してください。

### 6 BALANCE—バランス調整

左右レベルのバランスを調整することができます。ステレオ再生時の左右音量バランス調整をするときに有効です。

### 7 INPUT SELECTOR— 入力セレクター

リアパネルの各入力端子を選択しLEDの点灯で表示します。リモートコマンダーRC-10でも同様に切り替えることができます。

#### CD、TUNER、LINE-1~LINE-3

一般的なアンバランス方式で、リアパネル [10] の各入力端子へ接続した機器を選択します。

#### CD-BAL、LINE-BAL

リアパネル [11] および [12] へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

#### AD

オプションで増設したAD-250の、[19] 入力へ接続したアナログ・ディスク・プレーヤーを選択します。

- このつまみには指標がなく、エンドレス(ストッパーのない)のロータリースイッチを使用しています。



**8** リモート・センサー

本機に付属しているリモートコマンダーRC-10の赤外線信号を受信する窓です。リモートコマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。

**9** VOLUME—ボリューム調整

右へまわすと音量が増大し、左に回すと小さくなります。リモートコマンダーRC-10でも同様に作動させることができます。プログラム・ソースを切り替えたり、電源を切るときなどはボリュームを下げることを習慣づけましょう。

**10** CD, TUNER, LINE 1~LINE 3—  
ハイレベル入力端子

この入力端子はアンバランス方式の一般的なハイレベル入力端子です。

**11** CD INPUTS(BALANCED)—  
バランス入力時のCD入力コネクター

このXLRコネクターは、入力インピーダンスが40kΩのバランス型になっています。CDプレーヤーとかぎることなく、チューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。ピンの極性は、

- ①：グラウンド
- ②：インバート(-)
- ③：ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて正しく接続してください。

- このコネクターはXLR-3-31相当品で、接続する適合コネクターはXLR-3-12C相当品です。
- アキュフェーズではバランス用XLRコネクター付・ケーブルを別売しています。

**12** LINE INPUTS(BALANCED)—  
バランス入力時のライン入力コネクター

CDのバランス入力コネクターと同じように、バランス出力を持つ機器を接続することができます。

**13** TAPE 1/TAPE 2—  
テープレコーダー再生/録音端子

TAPE 1、TAPE 2それぞれにテープレコーダーを接続することができます。次のように接続してください。

“PLAY” 端子 ↔ テープレコーダーの“LINE OUT”  
“REC” 端子 ↔ テープレコーダーの“LINE IN”

REC端子の出力信号は、本機のボリュームなどの影響を受けませんが、モノスイッチが“MONO”になっているときは、この出力もモノフォニック状態になります。録音時にはご注意ください。

**14** OUTPUTS—  
出力端子(アンバランス)

2系統の出力は、一般の機器と同じアンバランス接続になっています。

通常はこれの1系統を使って出力を取り出してパワーアンプへ接続します。

**15** OUTPUTS(BALANCED)—  
バランス出力コネクター

このXLRコネクターは、出力インピーダンス50Ωのバランス接続になっています。入力インピーダンス600Ω以上のバランス入力を装備しているパワーアンプと接続することができます。

ピンの極性は、

- ①：グラウンド、
- ②：インバート(-)
- ③：ノン・インバート(+)

となっていますので、パワーアンプ側の極性を合わせて正しく接続してください。

- コネクターはXLR-3-32相当品、適合するコネクターは、XLR-3-11C相当品です。

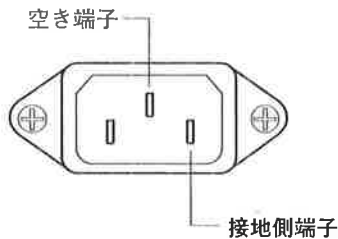
**16** SWITCHED—  
電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

- 接続する機器の消費電力の合計が500Wを超えないように、ご注意ください。

## 17 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。電源はAC100V家庭用コンセントをご使用ください。



### ■電源コードの極性表示

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。機器とこの極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合があります。本機も電源の極性を合わせるように配慮し、電源プラグの接地側に『W』マークを刻印しています。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。



室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)が『W極』ですが、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。

本機のSWITCHEDコンセントも向かって左側が『W極』です。

### ■AC電源電圧の変更とヒューズについて

AC電源電圧は国内仕様の100V、国内以外の仕様として120V、220V、230V、240Vに対応することができます。本機を国内以外の地域で使用する場合は、電源電圧の変更と適正なヒューズの使用が必要となります。

#### 内部を開けると危険です

電源電圧の変更やヒューズが切れて電源が入らなくなったときは、必ず弊社の品質保証部、または弊社製品取扱店へご連絡ください。

## 18 CARTRIDGE(MM/MC) — イコライザー・ゲイン切替スイッチ

イコライザー・アンプ(アナログ・ディスクを再生する時に必要なアンプ回路)のゲイン(利得)を切り替えるスイッチです。

### MM

MM(ムービング・マグネット)型カートリッジのときのポジションです。

このポジションの入力インピーダンスは47kΩです。

### MC

MC(ムービング・コイル)型カートリッジを使用するときはこのポジションにします。

- MM型カートリッジを使用中に、“MC”ポジションにしますと、音量が大きくなり、インピーダンスの関係で高域が出ないバランスのくずれた音になりますのでご注意ください。
- 無信号状態で、ボリュームの位置を変えずにゲインを上げると、能率の高いスピーカーではノイズが増加します。これはアンプのノイズレベルが変わらず、増幅度が上がったための現象です。
- 入力セレクターが“AD”ポジションの時、このスイッチを切り替えますと、ミュート回路が作動して約1秒間音が出ません。

## 19 AD INPUTS — アナログ・プレーヤー入力端子

この入力端子にはアナログディスク・プレーヤーの出力ケーブルを接続してください。

本機は高性能ハイゲイン・イコライザーを搭載していますから、いかなるカートリッジにも対応することができます。

## 20 GND—アース端子

アナログ・プレーヤーの出力ケーブルといっしょに出ているアース線を接続してください。

### 注意

AD-250の取り付けネジと歯付ワッシャー(4個)は完全に締めてください。ネジが途中では、GND端子がグラウンドから浮いて動作不良や故障の原因となります。

## 21 S1, S2, S3 : デイプスイッチの設定

### 注意

- AD-250を抜き差しするときは、必ずC-250の電源を切ってから行なってください。
- 各キーとも先の細いもので完全にセットしてください。指定以外の設定では所定の特性を得られません。

### S1 : MC LOAD—

MCカートリッジ負荷インピーダンス切替スイッチ

MCカートリッジの負荷インピーダンス(イコライザーアンプの入力インピーダンス)を設定するスイッチです。

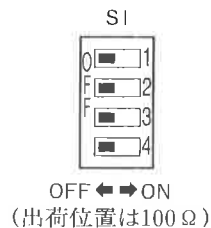
一般的には、MCカートリッジの内部インピーダンスが

20Ω以上：“100Ω”に設定

20Ω以下：“30Ω”または“10Ω”に設定

	キーをOFF側	キーをON側
100Ω	1, 2, 3, 4	—
30Ω	1, 2	3, 4
10Ω	3, 4	1, 2

(2ページの図参照)



- カートリッジの内部インピーダンスの2~3倍以上を目安にしますが、実際に試聴して良い音質の得られるインピーダンスを決定してください。
- カートリッジの内部インピーダンス以下の値にしますと、低域不足で中高域が細く硬質な音になります。
- S1で左右チャンネル同時に設定されます。

### S2, S3 : SUBSONIC FILTER—

サブソニック・フィルター

このフィルターは、可聴帯域外の超低域25Hz以下を12dB/octaveという急峻な特性でカットし、超低域ノイズが可聴帯域内へ悪影響をおよぼすことを防ぎます。レコードに大きな反りがあったり、超低域の振動によりウーファーがゆれたりするときに大変有効です。

#### SUBSONIC FILTER

“OFF”



(出荷位置)

#### SUBSONIC FILTER

“ON”



- S2：左チャンネル、S3：右チャンネル用ですので、両スイッチとも同じ設定にしてください。

# ご使用方法

## ■使用される前に

- ◆アナログ・ディスク再生の場合にはフォノイコライザーユニット AD-250の増設が必要です。
- ◆POWERスイッチは、各機器とLEFT(左)/RIGHT(右)共、正しく接続されるまで入れないでください。

### ツマミの位置を確認します。

- VOLUME：下げた(左にまわしきった)状態
- OUTPUT OFF、MONO：LED消灯
- TAPE RECORDER：REC OFF
- BALANCE：中央位置

## ■CDをお楽しみになる場合

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネル [10] のCD入力端子(またはTUNER、LINE端子)へ接続してください。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、[11]のバランス用“CD INPUTS”端子をご使用ください。接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① VOLUMEが下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤー、パワーアンプの電源を“ON”にしてください。
- ② 入力セクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択してください。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください

## ■アナログ・ディスク(AD)をお楽しみになる場合

オプションのAD-250を増設します。挿入前に、ボード上のディップスイッチにより、『MCカートリッジ負荷インピーダンス』と『サブソニック・フィルター』の設定をします。(9ページ参照)レコード・プレーヤーの出力ケーブルをリアパネル [19] のAD入力端子へ正しく接続してください。プレーヤーの出力ケーブルと一緒に出てくるアース線は [20] GND(グラウンド)端子へ接続します。接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

- ① 使用するカートリッジにより、リアパネル側 [18] CARTRIDGEスイッチでMMかMCを選択します。
- ② VOLUMEが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れて入力セクターの、“AD”ポジションを選択してください。
- ③ カートリッジをレコード面におろし、ボリュームを上げて行くと演奏が聴こえてきます。ボリュームを上げ下げして再生状態を確認してください。

## ■チューナーで放送を聴く場合

チューナーの出力ケーブルをリアパネル [10] のTUNER入力端子(またはCD、LINE端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、[12]のバランス用“LINE INPUTS”端子をご使用ください。CD再生と同じ要領で入力セクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

**テープレコーダーで録音・再生をする場合**

リアパネル [13] TAPE-1(またはTAPE-2)のREC 端子とテープレコーダーのLINE IN端子、PLAY端子とテープレコーダーのLINE OUT端子が、左右チャンネルそれぞれ正しく接続されていることを確認してください。

**再生：プレイバック**

TAPE RECORDERスイッチでTAPE-1(またはTAPE-2)に合わせ、テープレコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

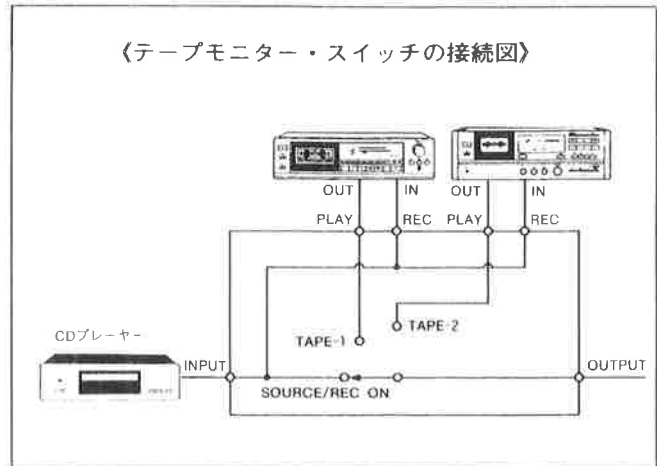
テープレコーダを再生だけに使用する場合は、AD以外の各入力端子を使うことができます。

**録音：レコーディング**

レコーディングをする場合は、次の手順で操作をしてください。

- ① 録音するプログラム・ソースを入力セレクターで選択し、スピーカーから音を出して確認してください。
- ② TAPE RECORDERスイッチをSOURCEポジションにします。テープレコーダーへの信号がREC端子から出力されます。
- ③ テープレコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。
- ④ 本機のボリュームやBALANCEなどは、録音される音には関係しませんので音量を下げて静かに録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。なお、MONOスイッチがモノフォニック状態(LED点灯)になっていると、録音出力もモノになってしまいますから注意してください。
- ⑤ TAPE RECORDERスイッチをTAPE-1(またはTAPE-2)へ切り替えると、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。
- ⑥ TAPE 1, 2の各REC端子には同じ信号が出力されますので、2台のテープレコーダーで同時録音も可能です。

《テープモニター・スイッチの接続図》

**電源 OFF時のチューナー録音**

本機はロジック・リレーコントロール回路を使用しています。これにより電源 OFFの場合には、**入力セレクターの位置に関係なく、バックパネルのTUNER端子に接続されている信号が、TAPEのREC端子に出力されます。**従って、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

## リモート・コントロール

### ■リモート・コマンダーRC-10の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-10を使うと離れたところから C-250の次の機能をコントロールすることができます。

#### ① INPUT SELECTOR—入力セクター

C-250の [7] と同じ機能を持ち、リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各キーを押しますと、INPUT SELECTORツマミの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

#### ② VOLUME—ボリューム調整

C-250の [9] と連動しており“+” キーを押し続けると、ボリューム・ツマミが右に回転し音量が増大します。また、“-” キーを押していると左に回転し音量は小さくなります。

### ■使用法

リモート・コマンダーの発光部をC-250本体の [8] REMOTE センサーに向けて、図の範囲でお使いください。

- ◆落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- ◆直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

### ■電池について

#### ◆電池の交換時期

電池は普通に使って約8ヶ月はもちますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、キーを押してもコントロールができなくなります。

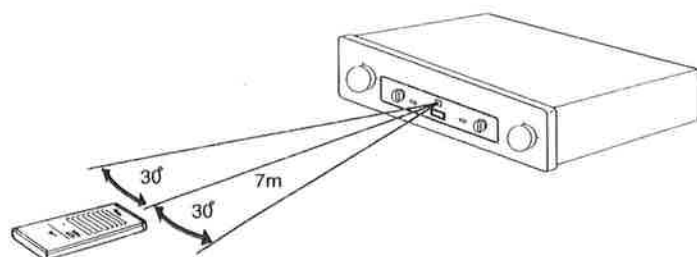
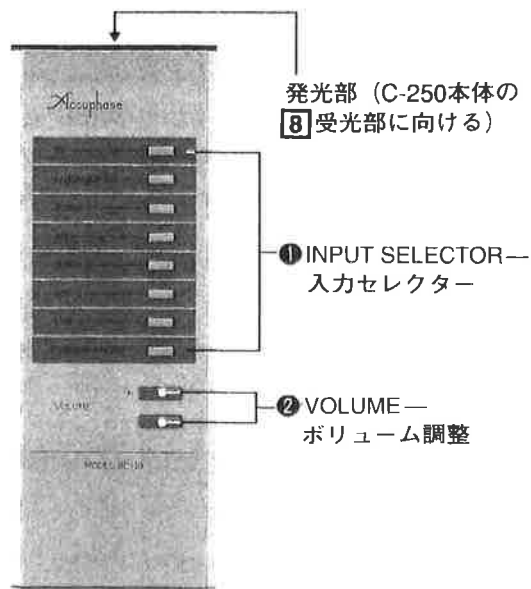
使用する乾電池は、SUM-4 (単4) 型を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

#### ◆電池についてのご注意

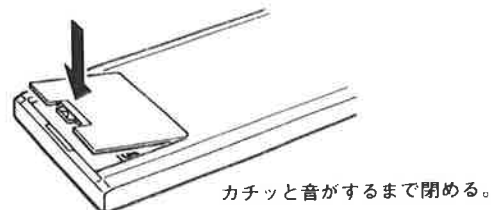
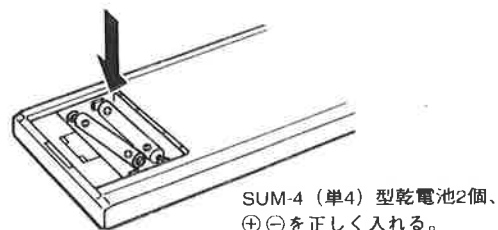
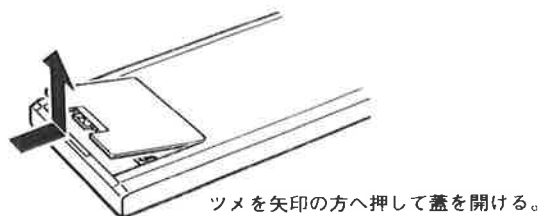
乾電池も正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

- ▲電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、+ (プラス)、- (マイナス) を正しく合わせてください。
- ▲新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。
- ▲同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。
- ▲長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。

万一、液漏れを起こしたときは、電池ケースについた液をよく拭き取ってから、新しい乾電池を入れてください。



### 乾電池の交換



# 保証特性

※保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。AD:アナログ・ディスク。

※特性はフォノイコライザー・ユニットAD-250増設時を示す。

## 周波数特性

BALANCED INPUT: [CD/LINE]

1 ~ 350,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

UNBALANCED INPUT: [CD/TUNER/LINE/TAPE PLAY]

1 ~ 600,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

AD INPUT

20 ~ 20,000Hz ±0.2dB

## 高調波ひずみ率

0.005% (すべての入力端子にて)

## 入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V出力時	
AD:MM	8.0mV	2.0mV	47kΩ
AD:MC	0.25mV	0.063mV	10Ω・30Ω・100Ω※
BALANCED	252mV	63mV	40kΩ
UNBALANCED	252mV	63mV	20kΩ

※MCの入力インピーダンスは、AD-250内部ディップスイッチで設定

## 定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 2.0V 50Ω XLRタイプ・コネクター

UNBALANCED OUTPUT : 2.0V 50Ω RCAフォノジャック

TAPE REC : 252mV 200Ω RCAフォノジャック/AD入力時

## ヘッドフォン端子

適合インピーダンス 4 ~ 100Ω

## S/N・入力換算雑音

入力端子	入力ショート IEC-A補正		EIA S/N
	定格入力時 S/N	入力換算雑音	
AD:MM	95dB	-137dBV	88dB
AD:MC	79dB	-151dBV	85dB
BALANCED	97dB	-109dBV	96dB
UNBALANCED	119dB	-131dBV	97dB

## 最大出力レベル(ひずみ率 0.005% 20~20,000Hz)

BALANCED OUTPUT : 7.0V XLRタイプ・コネクター

UNBALANCED OUTPUT : 7.0V RCAフォノジャック

TAPE REC : 7.0V RCAフォノジャック/AD入力時

## AD最大入力電圧(1kHz ひずみ率 0.005%)

MM INPUT : 250mV

MC INPUT : 8mV

## 最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT: 600Ω

UNBALANCED OUTPUT: 1kΩ

TAPE REC: 10kΩ

## ゲイン

BALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB

BALANCED INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 18dB

UNBALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB

UNBALANCED INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 18dB

AD:MM INPUT → BALANCED OUTPUT : 48dB

AD:MM INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 48dB

AD:MM INPUT → REC OUTPUT : 30dB

AD:MC INPUT → BALANCED OUTPUT : 78dB

AD:MC INPUT → UNBALANCED OUTPUT : 78dB

AD:MC INPUT → REC OUTPUT : 60dB

## サブソニック・フィルター

25Hz -12dB/octave

(AD-250内部ディップスイッチにより設定)

## 電源及び消費電力

AC100V, 50/60Hz 9W

## 最大外形寸法・重量

幅475mm×高さ140mm×奥行401mm

(AD-250増設時: 奥行414mm)

13.8kg (AD-250増設時: 13.9kg)

## 付属リモート・コマンダー RC-10

リモコン方式: 赤外線パルス方式

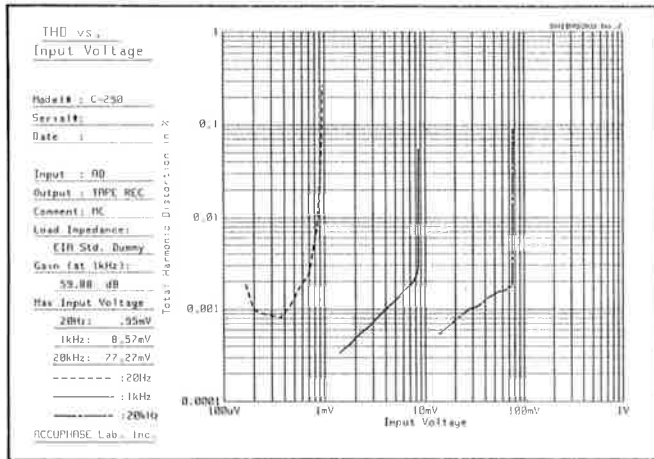
電源: DC 3V 乾電池: UM-4 (IEC呼称 R03) 2個

最大外形寸法: 幅 66mm×高さ 175mm×奥行 20mm

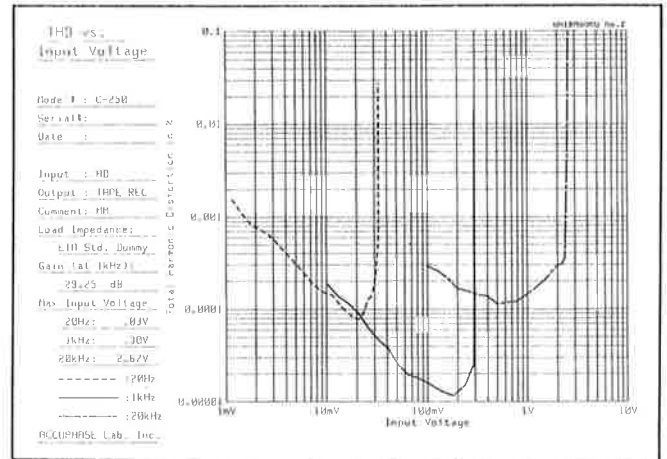
重量: 190g (乾電池含む)

※本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

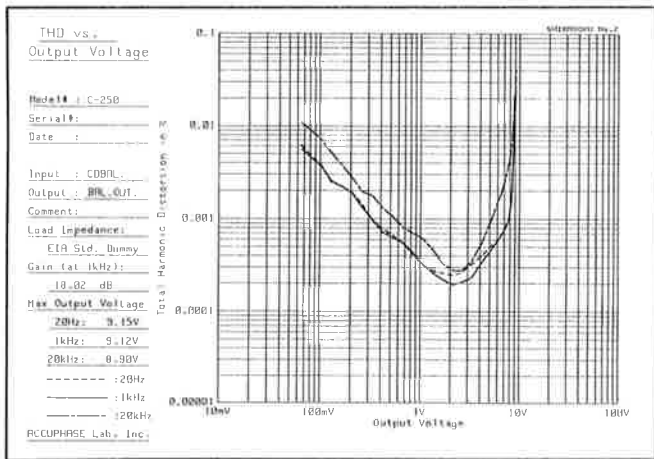
## 特性グラフ



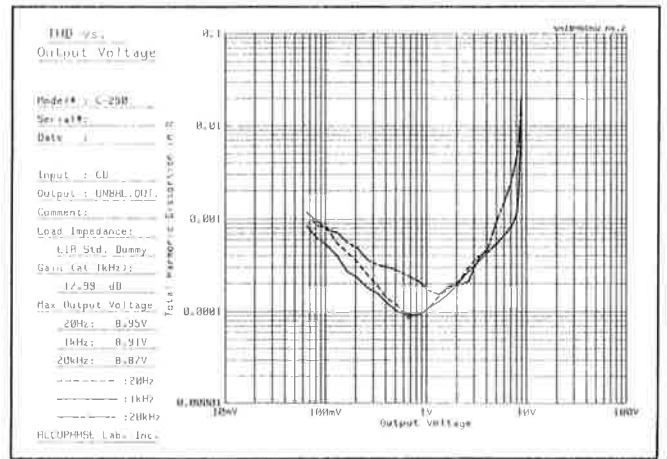
入力電圧／全高調波ひずみ率 (入力: MC/出力: テープ出力端子)



入力電圧／全高調波ひずみ率 (入力: MM/出力: テープ出力端子)



出力電圧／全高調波ひずみ率 (入力: CD平衡/出力: 平衡端子)



出力電圧／全高調波ひずみ率 (入力: CD不平衡/出力: 不平衡端子)

### 著作権について

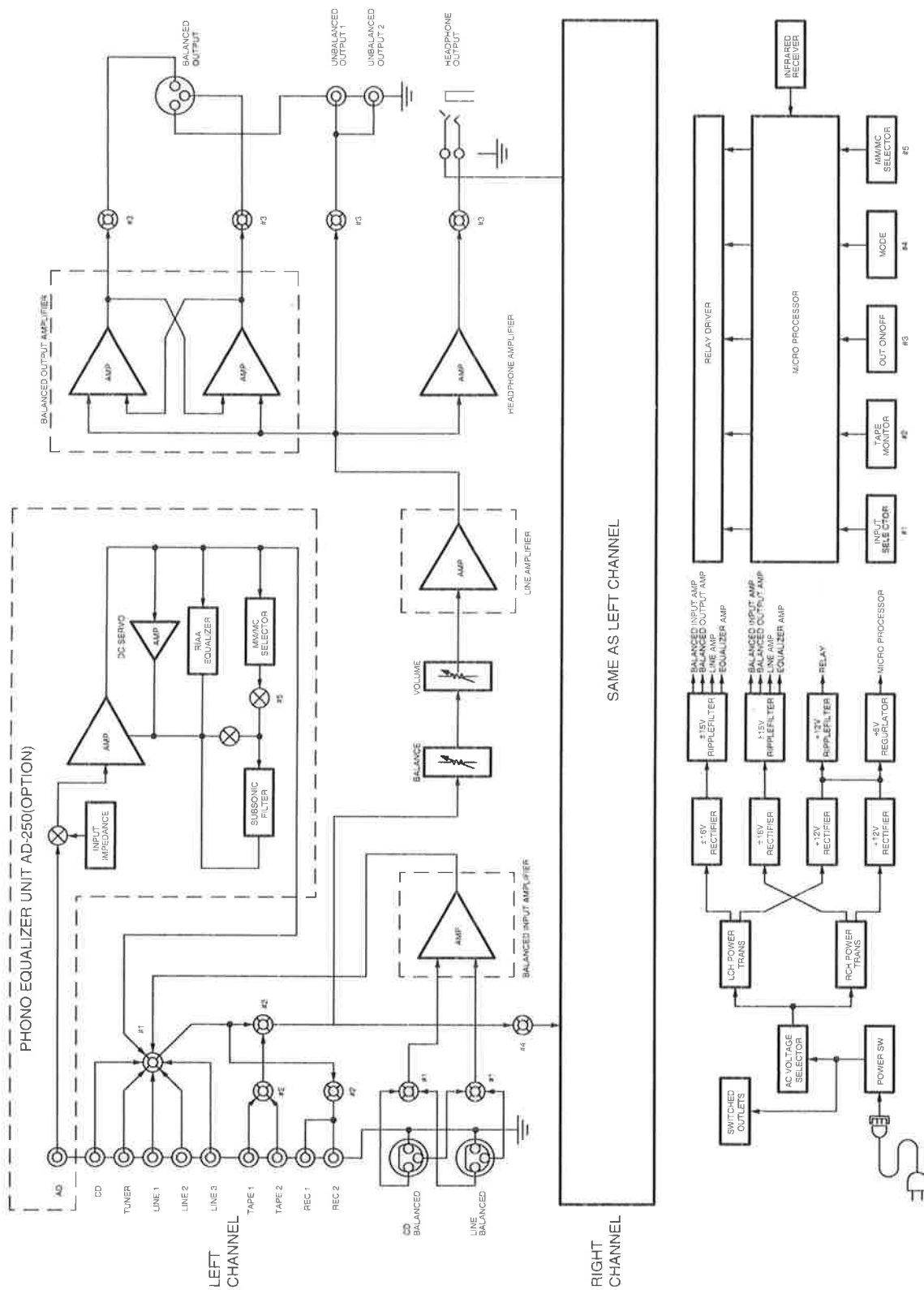
放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

### 音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。特に静かな夜間には、音量に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホーンをご使用になるのも一つの方法です。



# ブロック・ダイアグラム



## 故障かな?と思われる場合には

故障かな?と思ったら、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、弊社品質保証部または弊社製品取扱店にご相談ください。

～接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切ってください～

### 電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

### 音が出ない

- ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。
- 接続コードは正しく接続されていますか。
- 入力・出力切替スイッチの位置を確認します。

### 片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカー・コードは正しく接続されていますか。
- ソース側機器や本機のスイッチ類は正しい位置ですか。  
(バランス・コントロールの位置など)
- 本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えます。  
同じ側から音がでない……パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。  
左右逆の状態になる……本機やソース側機器に原因が考えられます。
- 次に本機への入力接続コードを左右入れ替えます。  
同じ側から音がでない……本機に原因が考えられます。  
左右逆の状態になる……接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

## アフターサービスについて

### 保証書

- 保証書は本体付属の“愛用者カード”の登録でお送りいたします。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日より2年間です。
- 保証書がない場合には、保証内修理ができない場合がありますので、よくお読みのうえ、大切に保存してください。

### 保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、右記にお問い合わせください。

### お問い合わせは

- ご質問、ご相談は弊社品質保証部または弊社製品取扱店にお願いいたします。

### 修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われる場合には”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

#### 次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号 ●ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店 ●故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいて下さい。

Notes:

A series of horizontal dashed lines for taking notes.

Notes:

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

STEREO PREAMPLIFIER C-250



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225 TEL(045)901-2771(代表)